

南平寮の寮生必携

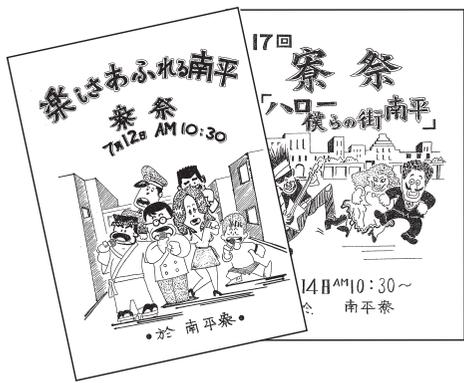
京王線の南平駅に隣接する住宅地に、「南平寮」がある。「なんべい」寮と呼称される同寮は、一九七六（昭和五一）年十一月十八日に竣工した学友会体育部の寮であり、敷地面積は七、四二七平方メートル、建物は男子学生用A・B棟（六五〇人収容）、女子学生用C棟（三〇人収容）、食堂・トレーニング室のあるD棟、管理職員のE棟からなり、二〇一〇（平成二十二）年四月現在五二四人（うち女子四〇人）の学生が寮生活を営んでいる。

菅原彬州「学友会体育部南平寮の落成」（『白門』掲載「白門百年の写真館」）によれば、同寮は、多摩校舎への移転にともなう体育施設統合計画の一環である体育部合宿所の建設が、校地周辺の市街化調整区域指定によって計画変更を余儀なくされた結果誕生したもので、建設予算総額は一九億一〇二万円余であった。

南平寮落成の翌年四月一日、学友会は「南平寮規程」を制定し、寮運営の体制を整備している。この規程によ

り、共同生活を営むことを通して、責任ある社会人としての人格を高めるとともに、大学スポーツの振興に資することとし、その目的を達成するため、「寮生は、つねに規律を重んじ、礼儀正しく行動すること」以下五項目からなる「寮生諸心得」を記載している。

また、諸規程では、寮の門限（午後十時半）・消灯時間（午後十一時）や食事時間、事務手続きやトレーニング施設の使用規則なども細かく定められており、スポー



寮祭プログラム

ツと学業を両立させるための寮生活が、一般的な学生生活とは異なる厳しさをもっていることが見える。しかし、寮生活には楽しい面もある。手帳の「寮内行事」には、毎年四月の

り、南平寮の管理運営は学友会会長が統轄することが定められた。また寮監・管理人が設置され、学友会事務室とともに運営実務を担当することとなった。寮生活全般を審議するため、「南平寮運営委員会」も設置されている。その構成は本学体育連盟監督会議で互選された五人と、寮長会議で互選された五人からなり、そのほかに学友会事務室長と寮監が特別委員とされている。

寮長会議とは、入寮生を各部ごとに区分して寮長を定め、その寮長によって構成される会議のことである。言い換えれば、入寮生たちの希望や意見は、彼らの所属する運動部の代表たちによって運営委員会に伝えられる体制が整えられたわけである。

ところで、南平寮の入寮生には寮生証をはじめ南平寮に関する学友会諸規程、寮生活全般にわたる注意事項などを記載した「寮生必携」が配布された。ここでは、南平寮の目的を「本学体育部学生が、本学の建学の精神に

入寮式と新入寮生歓迎会、六月の南平寮祭が記されている。このうち南平寮祭は、全寮生と学友会職員・地域住民の三者で開催するイベントで、寮内行事の中心をなしている。九九年七月に開催された第二〇回南平寮祭のパンフレットを見ると、寮内の敷地に野外ステージテントを利用した観客席が設けられ、その周辺に模擬店が出店するかたちで会場が設営されている。

催し物は、開会式に続いて演舞・寮長杯クイズ選手権・各部代表サバイバルゲームが行われ、昼食後にクラブ対抗演芸大会・個人アピール大会・表彰式・フィナーレとなっている。地域住民は、パンフレットに広告を掲載することで寮祭を協賛しているようである。

寮祭後の行事は、学年末の三月に開催される卒業寮生送別会であるが、「寮内行事」にはこれらの定期的な行事とは別に、随時開催される行事として優勝祝賀会が規定されている。

なお、二〇一〇年三月には、南平寮と同じく体育部所属学生の生活環境充実の目的で東豊田寮（定員八〇人）が竣工し、陸上競技部の学生が勉強やトレーニングに励んでいる。